

2025 年 8 月 7 日
日揮ホールディングス株式会社

2025 年度第 1 四半期決算に係るオンラインカンファレンス（説明会）における質疑応答（2025 年 8 月 7 日開催）

※オンラインカンファレンス開催日（2025 年 8 月 7 日）時点の情報に基づく内容です。

1. 2025 年度第 1 四半期の業績および 2025 年度通期の業績見通しについて

質問	回答
通期予想対比で第 1 四半期時点における売上高の進捗率（28%）がやや高いが、この要因は何か。通期の売上高見通し（6,900 億円）に対する見通しに大きな変化はないという理解でよいか。	売上高については、若干の上振れ傾向にあると認識しているが、まだ第 1 四半期時点での状況であるため、通期見通しが上振れるとまでは見ていない。通期業績見通しに使用している想定為替レート（1 米ドル＝140 円）と当第 1 四半期の実績為替レート（1 米ドル＝144 円 81 銭）の差による円安のプラス影響を差し引いた上で、第 2 四半期以降は想定為替レートで推移する前提に立てば、通期売上高見通し（6,900 億円）に対して大きな乖離はないと考えている。
2025 年度第 1 四半期の粗利益率（8.1%）は、通期業績見通しの粗利益率（7.5%）よりも上振れているが、その要因を教えてください。	2025 年度第 1 四半期においては、総合エンジニアリング事業における費用発生（見積失注費用など）のタイミングが四半期間で前後したため、一時的に上振れた。加えて想定為替レート（1 米ドル＝140 円）に対して、当第 1 四半期の実績レート（1 ドル＝144 円）は円安方向に推移したことにより、粗利益で約 8 億円のプラス影響が生じている（売上高では約 110 億円のプラス影響）。 第 2 四半期以降での費用発生や、今後想定為替レートに収束していくとい

	う前提に立てば、通期では予想値程度になると見込んでいる。
前期までに工事損失引当金を計上したプロジェクトの影響を除くと、粗利益率は順調に推移しているように見受けられるが、遂行中プロジェクトにおける採算改善などの上振れ要因はあったのか。	第1四半期においては、遂行中プロジェクトの採算改善による利益押し上げや、反対に追加費用計上による利益の押し下げも、特段目立ったものはない。 前期までに工事損失引当金を計上した遂行中プロジェクト（売上高は計上するが利益はゼロで計上）の売上高は、2025年度通期の売上高見通しの約2割を占めており、当第1四半期の売上高においても同様の割合である。 当第1四半期の粗利益率が通期業績見通しと比べて上振れている要因は、先ほど説明した通り（上述の通り）、費用発生のタイミングが四半期間で前後したことと、為替影響によるもの。

2. 受注・マーケット環境について

質問	回答
基本設計（FEED）役務が活発に動いているとの説明があったが、足元の受注動向について具体的に教えてほしい。例えば、LNG Canada 第2期拡張計画については FEED アップデート役務を既に受注しており、またアフリカ FLNG（洋上 LNG プラント）は、期初では今年度後半に受注を期待しているとの説明があったと思うが、現在の状況はどうか。	LNG Canada 第2期拡張計画については、昨日（8月6日）プレスリリースしたとおり FEED アップデート役務を受注し遂行している。 アフリカ FLNG プロジェクトについては、本年7月22日にプレスリリースした通り先行業務を受注し遂行中であり、顧客による最終投資決定(FID)を待っている状況である。現時点では FID の明確な時期は確定していない。 国内においてもサステナブル関連案件の FEED 役務を受注・遂行しており、顧客による FID に向けた準備が進められている状況である。

LNG Canada 第2期拡張計画のFEEDアップデート役務の契約形態について、プレスリリースでは実費償還形式との記載があるが、これは今後のEPC役務においても同様であるか。	FEEDアップデート役務のみ実費償還形式で契約しており、今後のEPC役務における契約形態については、顧客との商談の中で決定されていく。
インドネシアで計画されているアバディ LNG プロジェクトや、米国で検討されているアラスカ LNG プロジェクトについて、当社グループはどのように関与していくのか。	アバディ LNG プロジェクトについて、当社は陸上 LNG プラントおよび洋上生産出荷設備(FPSO)のFEED役務の入札に参加しているが、現時点で顧客と契約締結には至っていない。 アラスカ LNG プロジェクトについては、日本のエネルギー安全保障上重要なプロジェクトであると認識している、当社グループとしては状況を注視している。
顧客による設備投資の決定時期が後ろ倒しになる傾向は、地域や分野によって差があるか。	顧客が設備投資に対して慎重な姿勢を示している背景には、CAPEXの上昇や金利の高止まりといった要因がある。これは特定の地域や分野に限った傾向ではなく、顧客全般に共通する課題であると認識している。 但し分野別にみると、LNG分野においては顧客の計画検討が着実に進展している案件も存在している。一方で、サステナブル分野においては、経済合理性や制度設計の課題により、計画の実現に向けて一定のハードルがあると認識している。

3. その他

中東情勢による遂行中プロジェクトへの影響の有無について教えてほしい。	イスラエル・ハマス間で停戦が維持されている現時点では、当社グループがサウジアラビア、イラクおよびアラブ首長国連邦において遂行中のプロジェクトにおいて、大きな状況の変化は見られず、粛々と建設工事を進めている。なお、当社の危機管理統括部を中心に情報収集を継続しており、事態が急変した場合には、必要な行動がとれるような体制を整えている。
------------------------------------	---

当社が出資している米国ニュースケール社に関して、同社は アフリカや東南アジアにおける事業化調査等の役務を受注 している企業もあると聞くと、当社が現在取り組んでいる案 件はあるか。	米国ニュースケール社の案件については、当社のパートナーであり同社の 親会社である米国フルア社が中心となって計画を進めている。当社もフル ア社とともに事業化調査や基本設計役務の一部をサポートしている実績は あるが、EPC 案件に進展するまでにはまだ時間を要している。
---	--

以 上